

NBAP不定期通信

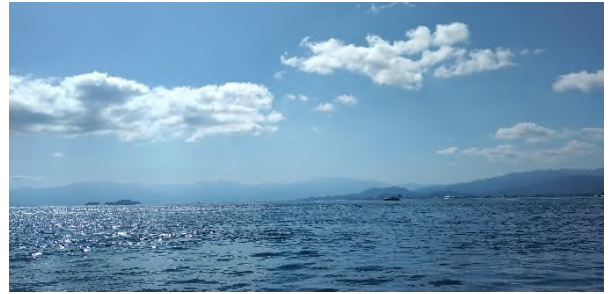
2024年3月17日 文責:三井一鬼



ノーバウンダリーズ
動物病理 No Boundaries
Animal Pathology

1. 愛媛で6年目に突入

岡山理科大学獣医学部の教員となり、造船とタオルとしまなみ海道サイクリング(お遍路さんも!)のまちである愛媛県今治市に移り住んでから、早いもので5年が経ちました。現在は形態学講座に所属し、獣医解剖学や獣医組織学の教育に携わりつつ、研究・学術活動や学生の卒論指導では獣医病理学を従来通り行っております。病理診断医との兼任でタフな毎日ではありますが、瀬戸内海と四国山地には疲れを吹き飛ばす美しさがあります。ぜひ皆様も一度お立ち寄りください!



今治沖から今治市街を臨む。

2. TAT (turn-around time)スタッツ

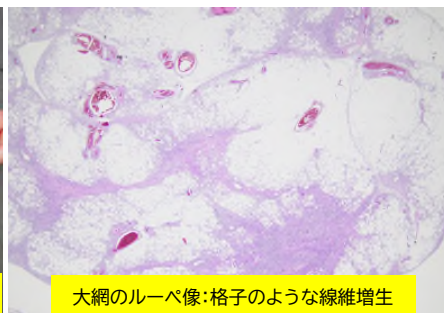
病理検査におけるTATは「検体受領から診断書を発行するまでの時間」のことです。TATを短縮することは、タイムリーな臨床判断のために非常に重要ですが、丁寧さ・慎重さを欠いては本末転倒です。先月の弊社組織病理検査のTATは3.26日でした。TATが5日以上だった症例は全体の22.4%で、断脚検体や下顎骨といった「脱灰処理(骨を軟化させる処理)」が必要な検体、脾臓・皮下大型腫瘍・乳腺鎖といった追加固定や脱脂を要する検体、さらに、工程に週末が含まれてしまった検体により構成されていました。弊社がワンマンの診断体制であること、南北に長く島しょ部の多い我が国の地理、さらに昨今の物流分野の働き方改革の影響で、大手検査会社のTAT(3日を切る)には残念ながら敵いませんが、四国細胞病理センター様と二人三脚で診断の速度と精度の最適なバランスを迫りまわります。

3. 最近遭遇した難解症例

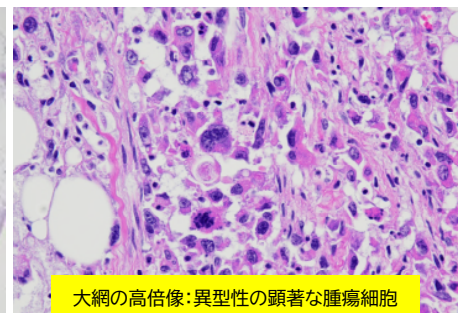
17歳6か月、未避妊雌、在来短毛種の猫。剖検時に約800mlの赤味を帯びた漿液性の腹水が認められました。



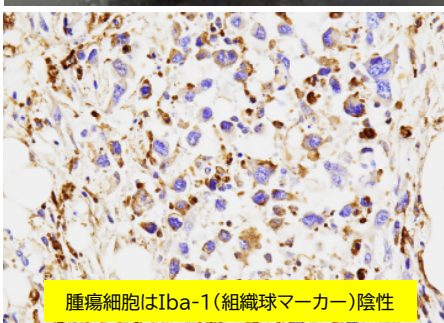
腹腔臓器:大網が多結節状を呈しつつ高度に拘縮



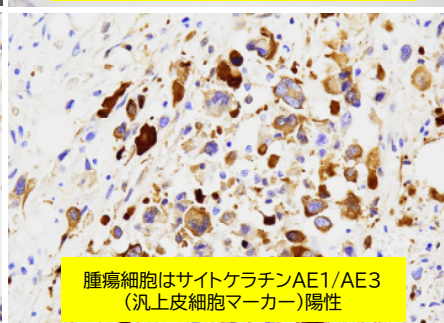
大網のルーペ像:格子のような線維増生



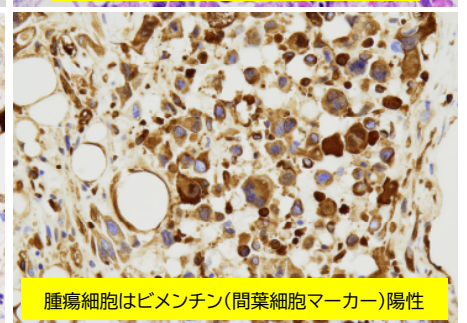
大網の高倍像:異型性の顕著な腫瘍細胞



腫瘍細胞はIba-1(組織球マーカー)陰性



腫瘍細胞はサイトケラチンAE1/AE3(汎上皮細胞マーカー)陽性



腫瘍細胞はビメンチン(間葉細胞マーカー)陽性

腫瘍の組織学的診断名:反応性線維増生を伴う悪性腫瘍(起源特定困難)

免疫組織化学の結果を踏まえて→

- 可能性1:退形成癌(極めて分化度が低い上皮性悪性腫瘍)
- 可能性2:(悪性)中皮腫(中皮細胞由来の悪性腫瘍)
- 可能性3:その他、既報のない腫瘍

生前に予想しなかった腫瘍が死後検査で発見されたものの、腫瘍細胞の形態や免疫組織化学の結果は多義的で、確定診断を阻むものでした。「コスメティック剖検」により、飼主様の心理的負担を軽減しつつ、動物の死因を追究することができます。詳しくは弊社HPをご覧ください(<https://no-boundaries.jp/postmortem-inspection/>)。

4. 本年の出張予定

日本獣医病理学会(3月、9月)、欧州獣医病理学会(スペイン、8月)に参加予定です。最大限学んで、先生方に様々な形でフィードバックいたします。留守中にご迷惑をおかけいたします。詳細はHPでお知らせいたします。